

## 小児科診療所における乳幼児健診受診状況

澤田啓司

ひさいこどもクリニックの有料の乳幼児健診受診者（3才未満）について、受診時の月年齢、受診回数を調査した。

### 1. ひさいこどもクリニックの地域特性

ひさいこどもクリニックは人口約4万の久居市にある。久居市には他に小児科診療所2、国立病院、保健所があり、それぞれ乳幼児健診を行っている。

ひさいこどもクリニックの登録患者数は約4千、年間患者数は約1万5千人である。

三重県では県、医師会の定めた方式による乳幼児健診が行われており、4、10ヶ月児の受診結果を各医療機関、保健所が県に報告し、それを県で集計する方式をとっており、また、保健所では、4、7、10ヶ月児を対象とした健診を実施している。

### 2. 調査目的

特に健診月齢を定めず、任意に受診する方法を取った場合、健診のニーズの高い月齢はいつか、有料の健診にどれくらい受診者があるかをすることを目的とした。

### 3. 対象

ひさいこどもクリニックの昭和62、63年乳幼児健診受診者238名を対象とした。

### 4. 調査結果

4、7、10ヶ月児の受診が多い。これは、三重県方式、保健所健診の影響であろう。3、6ヶ月、1才児も受診が多い。（表1、図1）

受診回数は、男女差は認められず、第1子の2回以上の受診が、第2子以降より多い傾向がみられた。（表2、3、図3、4）

受診回数1回のみの場合の受診月齢は、3、4、6、7、10ヶ月と1才時に多い。（表4、図2）

0、1ヶ月児の受診は多くない。

### 5. 考察

0、1ヶ月児の健診のニーズは、3、4ヶ月ころ同様に多いものと思われるが、小児科医の手による健診の機会は少ない。乳幼児健診の目的や、保健指導の一貫性から云えば、この時期の健診も、産科医ではなく、小児科医が行うことが望ましいと考える。

1才児の健診は、公的な健診システムには含まれていないが、初誕生という、昔ながらの節目として、ニーズが多いようである。

第1子の受診回数が、第2子以降より多いことは、当然予想されたことではあったが、興味深かった。

表 1. 受診月年齢

月年齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1y	2y
例数	5	18	39	81	81	39	53	63	22	23	80	10	70	72	37

受診者数 238 延べ受診回数 693 一人当り平均受診回数 2.9

表 2. 男女別受診回数別受診状況

回数	1	2	3	4	5	6以上	計
男	65	27	17	12	6	15	142
女	39	17	6	10	6	18	96
計	104	44	23	22	12	33	238

表 3. 第1子, 第2子以降別受診状況

回数	1	2	3	4	5	6以上	計
第1子	55	28	16	11	8	25	143
第2子 以降	49	16	7	11	4	8	95
計	104	44	23	22	12	33	238

表 4. 1回受診者の受診月年齢

月年齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1y	2y
例数	1	4	5	13	14	2	4	8	1	0	11	2	15	13	11

図1 月年齢別受診者数

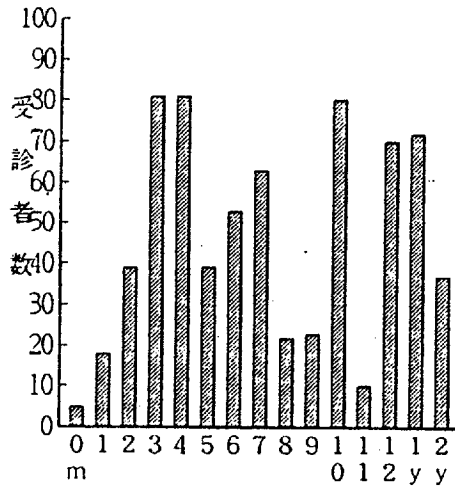


図2 1回受診者の受診月年齢

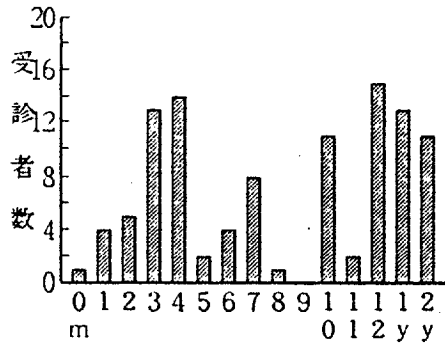


図3-1 受診回数-男

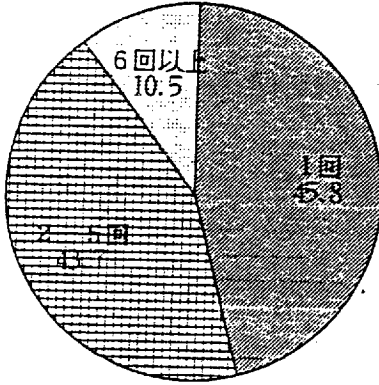


図3-2 受診回数-女

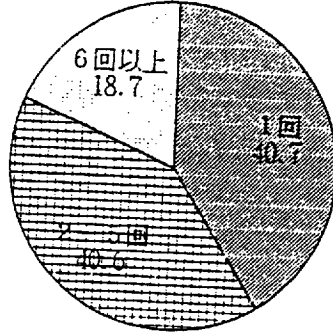


図4-1 第一子受診回数

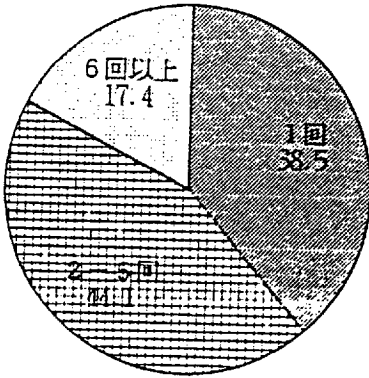
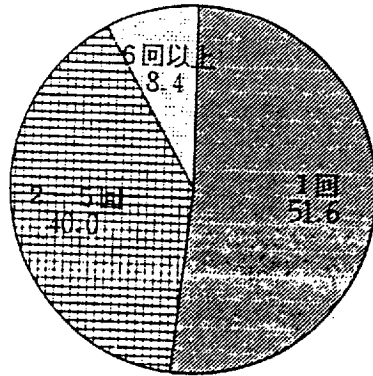
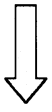


図4-2 第二子以降受診回数





**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



## 2. 調査目的

特に健診月齢を定めず、任意に受診する方法を取った場合、健診のニードの高い月齢はいつか、有料の健診にどれくらい受診者があるかを知ることを目的とした。